

サーフィンサイエンス&テクノロジーシンポジウム開催に向けて

和歌山県サーフィン連盟会長
梅本利樹

始めに主催者・共催者を代表致しまして本シンポジウムが開催できたことを心から感謝御礼申し上げます。

今回何故、和歌山県サーフィン連盟がこのシンポジウムの共催になっているかと申しますと、今回の主催者である独立行政法人港湾技術研究所とは、以前からサーフィンに関して交流させて頂いた関係から、今回のシンポジウムの開催となっています。私自身、今回のシンポジウムとは話は違ってきますが、以前整形外科病院で勤めていた関係から、スポーツ医科学と言うものを少しばかり勉強した経験があります。何故バスケットの選手が同じ足首の場所ばかり捻挫をするのか等、人間の運動領域の中でスポーツを科学的に検知し、各種スポーツをする上で人のどの部分に重力がかかり、負担になり、怪我に結びつくのか、等勉強して来た経過があります。

本日のシンポジウムもサーフィンを科学的に検知し、また、自然の波、天候、環境、場所（サーフポイント）また、安全・防災等この一つの事業でサーフィンを通した新しい形でのサーフタウンの在り方、次世代に残していける自然と現代科学を利用した新しい海岸創りに貢献できるのでは、という観点と視点から、港湾技術研究所と数年間検討し今日の開催に結びついています。

多くの皆様に幅広く今回のシンポジウムの主旨、いろいろな方々にご理解を賜り、サーフィン業界に携わって頂いている関係各位の皆様、学識経験者の方々の皆様科学的に考えた事業の在り方を研究している機関環境をベースに今後の未来のサーフィンの在り方を見つめている各種団体の皆様のお考えをお聞かせ頂ければと考えております。将来、日本のどこかで、このシンポジウムの主旨にもあります様に、次世代に残していけるサーフィンの環境が出来れば幸いと思い、本日のシンポジウムの開催となりました。